

平成27年度 京橋朝海幼稚園 外部評価報告書
外部評価委員：小林高光委員 安達公一委員 森田俊秀委員 江村光良委員 鈴木康介委員 中村輝樹委員 報告書作成者：株本 光子
評価時期 平成28年 2月
<p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「元気でたくましい体をつくる」</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、教員とも肯定的な評価をしている。園長を始め教員が、目指す園児の姿や具体的な取組を共有し、保護者に丁寧に説明したからであろう。評価指標の①②とも、説明から、この取組の根拠、目指す姿、取組が明確であることが分かった。また、その都度一人ひとりの保護者に成長の姿を伝えていたこともこの評価につながったと理解できた。 園長から、前年度の評価結果に「よく分からない」と回答したものが一人いたために、今年度は、取組を改善したとの説明を受けた。一人ひとりを大切にしたい園経営の姿勢が理解できた。この姿勢を次年度も貫いていただきたい。 <p>重点目標2「人と関わる力を育む」</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、教員とも高い評価をしている。中に「分からない」と回答した保護者が少数いた。園長から「分かる」ようにしたいと考え、直ちにできることを始めているとの説明を受けた。この動きこそ園を改善する姿勢である。 目標「人と関わる力」と取組「話を聞く」「返事を進んでする」「興味をもって見聞きする」などと、園児の今後の成長とどんな関係があるかを保護者に丁寧に説明することも必要である。保護者育ての視点も大切にしたい。 <p>重点目標3「幼稚園と保護者が子育てを共に考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、教員とも高い評価をしている。園長、教員の努力の結果である。 自分勝手な保護者が増えているというニュースが多い。本園でも、未来を担う園児のために、どんな考えで何をすればよいかを保護者、地域とともに考えたり、アイデアを出し合ったりして、教育に生かすようにしていただきたい <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 「発信の工夫をしたい」「やっていることをどうお知らせするか工夫している」「視覚に訴え説明したい」など、たくさんのアイデアをもち、日々改善し続ける姿は、本園が発展している証である。今後も、計画、実施、評価、改善の動きを止めないようにしていただきたい。 地域と協働することが大切と言われている時代である。今度は、保護者、地域と共に園児を育て、園児の変化が保護者の変化につながるような道筋をつくりたい。 そのためには、保護者も地域も他人事ではなく自分事としてベビーカーのこと、降園のルールなど気付いた問題を共有し、共に解決するようにしたい。 教員の自己評価はグラフで示されているが、その他に話し合うことも取り入れるとよい。なぜよいと評価したのか、なぜできなかったのかを膝を突き合わせて話すと、今年度のよい取組の確認、事前どの取組の想像となる。教員の自信にもつなげたい。